

OPDES ノーズワーク ビギナークラス規程書



令和7年 7月 23日 制定
令和8年 2月 5日 改正

第1章 - ビギナー概要

セクション 1.1 - 目的

OPDES ノーズワーク ビギナークラスは、フードを対象としたサーチを行う初心者向けのクラスである。

セクション 1.2 - 概要

ビギナークラスの競技は屋内で行い、ハンドラーが用意したフードを探し、発見して所定の個数を食べ終えた時点で、その旨を審査員に伝える。

ビギナーには、ハンドラーが用意した 3 つのフードを、複数の段ボール製オブジェクトの中から探すビギナー1 と、ハンドラーが用意した 3 つのフードを、複数のプラスチック製オブジェクトの中から探すビギナー2 がある。

セクション 1.3 - 参加資格

- ・血統書の有無にかかわらず、生後 6 か月を超えたすべての犬が参加できる。
- ・会員・非会員問わず、すべての人と犬が参加できる。
- ・発情中の牝犬も参加可能。ただし、事前に運営事務局へ報告すること。発情犬の出場順は、すべての競技終了後とする。審査員は、搜索エリアの形状変更を行った場合、発情犬のために内容を記録しておくこと。
- ・痛みを伴う可能性のある疾患、包帯・テープ・縫合糸などの医療処置が施されている犬は、出場できない（年齢や加齢による疾患は一般的にこれに該当しない）。
- ・審査員が痛みの兆候を認めた場合、競技の中止を命じることがある。
- ・身体に障害がある犬（例：四肢切断など）でも、痛みや不快感の兆候がなく、安全に搜索できると審査員が判断された場合は参加できる。
- ・聴覚または視覚に障害がある犬も、ハンドラーが犬の安全を十分に確保し、かつクラスの要件を満たす場合には参加可能。ただし、ハンドラーは犬の搜索を助けることはできない。

第2章 - ビギナー要項

セクション 2.1 - タイトル

ビギナークラスにはタイトルの設定はなく、タイトルの取得対象外とする。
(タイトルについてはノーズワーク規程書第2章を参照)

—

セクション 2.2 - ビギナーの搜索要項

搜索範囲 (推奨) : 4m × 4m以上

①ビギナー1

初心者向けのレベル

搜索環境 : インテリアのみ

制限時間 : 3分

ハンドラーが用意した3つのフードを、複数の段ボール製オブジェクトの中から犬が探す。

使用する段ボール製オブジェクトは、底面に粘着テープなどを使用しない、下組み式段ボールや、ワンタッチ式段ボールなどのB式段ボールを使用する。

オブジェクト例 (段ボール)



段ボールの厚み : 1~3 mm

箱のサイズ : B5、A4

箱の深さ : 10~20 cm

②ビギナー2

初心者向けのレベル

検索環境：インテリアのみ

制限時間：3分

ハンドラーが用意した3つのフードを、複数のプラスチック製オブジェクトの中から犬が探す。

使用するプラスチック製オブジェクトは、粘着テープなどで固定しない。

オブジェクト例（プラスチック）

		
じょうろ	風呂桶	薄めのバット
		
お風呂椅子	ちりとり	ザル（深め）
		
ザル（浅め）	黒い容器	取手付きボール

—

第3章 - ビギナールール

ノーズワーク ビギナークラスでは、ハンドラーが用意したフードをアーティクルとして使用する。

セクション 3.1 - 首輪、ハーネス、およびリード

会場内では、常に犬にリードを装着しておくことが原則である。使用が認められる装着物は、フラットバックル、スナップカラー、ハーフチョーク式首輪、そして引っ張っても締まらないタイプの標準的なバッククリップハーネスである。安全な移動のために必要と判断される場合には、足カバーや服の着用も認められるが、最終的な可否は審査員の判断に委ねられる。

一方で、チョークチェーン、スリッカラー、スパイク首輪、ジェントルリード、ノーブルハーネス、リードと一体型の首輪、金属製のリードや首輪、そしてフレキシブルリードの使用は認められない。

セクション 3.2 - ハンドラー装着物

ハンドラーは、犬へのご褒美（トリーツ）を入れるためのポーチやファニーバックなどの補助用具を着用して捜索を行うことができる。また、時間確認のために時計などを着用することも認められているが、公式タイムは公式タイマーによって計測され、ハンドラーはこれに異議を唱えることはできない。

受付時には、参加レベルに応じた色分けのリストバンドが配布され、このリストバンドの着用がブリーフィングおよび捜索エリアへの入場の条件となる。競技終了までリストバンドは外してはならない。

セクション 3.3 - アーティクルについて

ノーズワーク ビギナークラスでは、ハンドラーが持参したフードをアーティクルとして使用する。ハンドラーは受付時ノーズワーク用フードを 5 粒提出しなければならない。未提出の場合は参加できない。提出されるフードの最大径は 8mm までとし、そのすべてを 1 種類で統一しなければならない。

セクション 3.4 - オブジェクトの設置

オブジェクトは、審査員がビギナークラスに適した難易度となるよう、また犬のサイズに関わらず検索できるよう配慮して設置する。

セクション 3.5 - ブリーフィング

検索開始前には審査員によるブリーフィングが行われる。この際、ビギナーの基本ルール、制限時間、検索終了の告知方法などの説明がなされる。ハンドラーは審査員に質問することができるが、審査員は必要に応じて回答を拒否できる。また、ブリーフィングには犬を伴って参加することはできない。

セクション 3.6 - 待機

ブリーフィングを終えた参加者は、競技会事務局が指定する待機場所にて待機しなければならない。競技は定められたタイムスケジュールに基づき進行し、参加者は待機係の指示に従い、指定の順番で検索エリアに入場する。出番を待つ参加者は事務局が指定する直前待機場所にて待機し、競技が終了した参加者と出番前の参加者が接触しないよう、動線および待機場所を分けて運用する。すべての参加者は係員の誘導に従って行動しなければならない。

待機エリア名	対象	目的
A：待機エリア	ブリーフィング後の全員	ブリーフィングの為の集合、捜索までの待機
B：準備エリア	次に出番の1～2チーム	呼出し後、犬を伴って捜索への準備をする
C：終了エリア	捜索を終えた参加者	出番前のチームとの接触を避けるため

セクション 3.7 - 捜索エリアへの入退場

捜索エリアへは必ずリードを装着して入場する。その際手荷物などは捜索エリアに持ち込んではならない。指定されたスタート位置に進み、審査員の合図でリードを外す。審査は捜索エリアに入った時点から開始され、終了後は速やかにリードを再装着し、スタッフの指示に従って退場する。その後は終了待機場所で待機し、出番前の参加者との接触を避けること。

セクション 3.8 - タイム計測

タイム計測は、犬がスタートラインを越えた時点で開始され、審査員およびタイム係により記録される。ハンドラーが「捜索が終了した」旨を口頭で審査員に伝えることで計測が終了する。ハンドラーが捜索を継続している場合は、タイムも継続される。

セクション 3.9 - 捜索中のハンドラー

捜索中、ハンドラーはスタートエリアに留まらなければならない
スタートエリアの大きさ 1.5m×1.2m以上を推奨

セクション 3.10 - アラート

犬がすべてのフードを食べ終えたと判断したら、ハンドラーは「アラート」と発言するか挙手により審査員に告知する。審査員は正解・不正解をその場で伝える。不正解ごとにペナルティーが課される。

セクション 3.11 - タイムオーバー

制限時間内に犬がすべてのフードを食べ終わることが出来なければ、失格となる。

セクション 3.12 - 会場でのマナー

競技参加者および見学者による競技中の撮影は一切禁止とする。ただし、競技会運営事務局が記録・広報等の目的で撮影を行う場合がある。参加者は、自身が出場するレベルの競技を見学することはできない。参加していないレベルの競技を見学する場合は、競技会主催者が指定する方法に従って行わなければならない。大会によっては見学自体が認められないこともある。

セクション 3.13 - 禁止事項

出番を待つハンドラーに対して搜索環境に関する情報を提供してはならない。また、搜索を終えたハンドラーは、同一レベルの出番を控えたハンドラーと会話を交わしてはならない。加えて、会場内にいるすべての者は、搜索中のチームに対し影響を及ぼす可能性のあるいかなる行為も行ってはならない。
